

# 彦根城 観光地図

## 彦根城をひと巡り ぐるっとコース 90分

表門橋→表門→鐘の丸→天秤櫓→時報鐘→太鼓門櫓→着見台→天守→黒門→楽々園→玄宮園

■国宝の天守と重要文化財の櫓、美を誇る名勝玄宮園。城山からの眺望と、玄宮園から天守を仰ぎみるコース。聴鐘庵(時報鐘)・鳳翔台(玄宮園内)では薄茶(500円)をお楽しみいただけます。彦根城入場料(500円)には玄宮園入園料も含まれています。  
※国宝・彦根城築城400年祭開催期間中(平成19年3月21日～11月25日)の観覧料 一般1,000円/小・中学生200円 (9:00～16:00 ¥500 お菓子付)

## ぐるっとコース プラス 30分

+ 彦根城博物館

■江戸時代の彦根藩の政庁であった表御殿を復元したもので、昭和62年彦根市市制施行50周年を記念して彦根城博物館として開館した。井伊家に伝わる多数の美術工芸品や能や茶器の愛蔵品、古文書の展示のほか、表御殿の中央に占める能舞台や藩主が日常生活を営んだ「奥向き」は、御座の間や茶室・庭園が復元されており、館そのものが博物館として楽しめる。国宝『彦根屏風』を所蔵、毎年春に展示され、能舞台では春と秋に能が催されている。

+ 埋木舎 直弼の青春時代を偲ぶ

■井伊直弼が17～32歳までの15年間を過ごした埋木舎周辺を散策。いろは松駐車場へ戻ることもできて便利。

+ 玄宮園 庭園を心ゆくまで鑑賞する

■玄宮園をゆっくり時間をかけて散策。眺めのよい鳳翔台で薄茶を味わい、心静かなひとときを……。

## ぐるっとコース プラス 45分

+ 城郭建築をくまなく観る

■天守見学後、西の丸三重櫓(重要文化財)へ。観音台、山崎郭から黒門へと進む。また、山崎郭から、梅林、大手門へと進むコースもある。城山の美しい自然をぞんぶんに楽しみたい。

## ぐるっとコース プラス 60分

+ 夢京橋キャスルロード・四番町スクエア

■夢京橋キャスルロードは、白壁に黒格子、切妻屋根の町屋風の建物が並びノスタルジックな雰囲気漂うまち。食事処や喫茶店、お土産店などが江戸時代の町屋風に再現された観光スポット。  
■四番町スクエアは、大正ロマンを慕って景観整備が行われた「水と音と祈り」のまち。「食」のテーマ館を核施設に、脳に優しいハイパーソニック・サウンドが流れている。

お問い合わせ

●彦根市観光案内所 ☎0749-22-2954

●彦根観光協会 ☎0749-23-0001

●彦根城 ☎0749-22-2742

<http://www.hikoneshi.com/>



## 彦根城のみどころ

- いろは松**  
表門橋に向かう中濠の沿道の松並木で、47本あったのでこの名が付けられた。現在は34本(補植12本)残っている。当時の面影が偲ばれる通りである。
- 埋木舎(月曜日定休)**  
井伊直弼が青春時代を過ごした館。徳川幕府の大老として幕末動乱期、開国の父となった才能の礎はこの埋木舎で暮らした時代に培われた。(☎0749-23-5268)
- 馬屋(重要文化財)**  
元禄時代に建てられ、常に十数頭の藩主用の馬がつかわれていた。昭和43年に解体修理されこけら葺きの屋根が美しい。城内に残る馬屋は彦根城だけである。
- 天秤櫓(重要文化財)**  
表門から坂を上がって行くと廊下橋(非常時には落とし橋となる)が見える。この橋を中央として左右対称に建てられているのが天秤櫓である。まるで天秤のような形をしていることから天秤櫓と呼ばれている。日本の城郭でこの形式のものは彦根城だけである。
- 時報鐘**  
城全体に響くようにと鐘の丸より移されたもので、今も定時に鐘がつかれ「日本の音風景百選」に選ばれている。幕末期により美しい音色にしようとして大量の小判が投入された。また左手の聴鐘庵は茶屋として薄茶を楽しめる。(9:00～16:00 ¥500 お菓子付)
- 太鼓門櫓(重要文化財)**  
本丸への最後の関門である太鼓門櫓は、東側の壁が無く、柱の間に高欄をつけ廊下になっている。登城合図用の太鼓の音を響かせるために考えられたのではないかとされている。
- 西の丸三重櫓(重要文化財)**  
本丸の西側一帯を西の丸と呼び、その西の丸の一番はずれにあるのが三重櫓である。10m以上に及ぶ高い石垣の上に築かれている。三重櫓の東側一帯は桜が植えられ、お花見のスポットとしても知られている。
- 天守(国宝)**  
いくつもの屋根様式を巧みに組合わせた美しい曲線の調和をみせ、どっしりとした牛蒡積と呼ばれる石垣の上に三層三階の天守がそびえている。京極高次が築いた大津城から移築されたといわれ、慶長十二年(1607)頃に完成した。天守の中に入れば、通柱をさけた造りや隠狭間など内部の細かな構造が見学できる。昭和27年国宝に指定され、姫路・松本・犬山城とともに国宝四城の一つである。

## 彦根の歳時記

**桜まつり 4月1日～20日**  
彦根城を中心に1300本の桜が見事に咲き誇ります。満開の時期は毎年10日前後です。

**花火大会 8月1日**  
毎年松原水泳場沖で行われ、花火が湖上の夜を飾ります。

**玄宮園で虫の音を聞く会 9月1日～30日**  
秋の一夜、ライトアップされた大名庭園で虫の音を聞きながら邦楽・野点、船での回遊を楽しんでいただく夜間イベントです。日本の音風景百選に選ばれました。

**小江戸彦根の城まつり 10月1日～11月4日**  
彦根城を中心に、絢爛豪華な大名行列をはじめ、さまざまなイベントが繰りひろげられます。

**錦秋の玄宮園ライトアップ 11月15日～12月上旬**  
錦織りなす紅葉が夜空に映え、凛とした空気の中、大名庭園の散策を楽しんでいただく、人気の夜間イベントです。池に映しだされる紅葉も見事。

小さな黄色の花の河骨(こうほね:スズレン科の水車)が見られる。(5月～9月)

真っ白な蓮が咲きます。(7月～8月)

葉書の語源の多羅葉の木  
めずらしいオニバスが見られる。(8月～9月)

お濠ぞいの桜が美しい。

**9 玄宮園(名勝)**  
城の北東にある大名庭園で、中国の瀟湘(しょうしょう)八景にちなんで選ばれた近江八景を模してつくられた縮景園。第四代藩主直興が延宝五年(1677)に造営した。毎年9月中「虫の音を聞く会」が、11月後半には紅葉のライトアップが催され、大名庭園ならではの秋が味わえる。

**10 鳳翔台(茶室)**  
玄宮園内の築山に建つ趣のある建物。かつては、藩主が客人をもてなすための客殿であった。この鳳翔台から眺める玄宮園はすばらしく、庭園を鑑賞しながらの薄茶の味は格別である。(9:00～16:00 ¥500 お菓子付)

**表門橋**  
明治初期の写真や当時の文献を参考に、3年の歳月をかけ平成16年2月、現代に蘇った。



●彦根城と井伊家  
彦根城は、三層白亜の天守を頂き、二重の濠に囲まれた城郭がほぼ400年前の姿をとどめる天下の名城です。初代藩主井伊直政(1601)より第十四代藩主井伊直憲(1860)に至るまでの260年間一度の国替えや城攻めもなく、いまなお彦根の象徴として三十五万石の気高い雄姿を誇ります。



### ●初代藩主井伊直政と石高

天正三年(1575)、直政が15歳の時、家康に遠州(静岡)の井伊谷で二千石を授かる。16歳の初陣で大功をたて一万三千石。22歳の武田征伐で四万石。30歳の時、上野国箕輪城十二万石城主となる。のち関ヶ原の合戦での大功にて、石田三成の居城佐和山城(彦根市)の城主となって十八万石を授かった。彦根に居城した直政は、わずか一年で関ヶ原での傷が因となり、42歳の若さで一生涯を終えた。

### ●井伊直弼

第十一代藩主の十四男として生まれた直弼は、理木舎で国学者の長野主膳と和歌を詠じ、能・狂言・茶道をたしなむ人物であった。時代の要請により長兄の跡を継ぎ藩主となり、安政五年(1858)大老に就任。開国を主張し、日米修好通商条約に調印。しかし、二年後の万延元年(1860)三月三日、江戸城桜田門外において攘夷派に襲われ、波乱に満ちた46歳の生涯を閉じた。

### ●俳遊館(火曜日定休)

彦根の情報を俳句とともに紹介する洒落たみちくさ処。大正13年に建てられた銀行を利用し、レトロな雰囲気を感じ出している。投句箱が設けられており、旅の思い出に一句詠む人も多い。パソコンでのクイズや彦根の伝統遊具であるカラムも体験できる。(☎0749-22-6849)

### ●夢京橋キャッスルロード

白壁と紅殻に煤がけの黒格子、軒の傾斜をそそえ、歴史的景観を大切に現代に甦った新しい城下町。お食事処、伝統の和菓子、お土産など、個性豊かなお店の数々が軒を連ねている。

### ●夢京橋あかり館(火曜日定休)

江戸時代より伝わる和蠟燭を中心に彦根を彩るさまざまな『あかり』を紹介するテーマ館。約500種類におよぶキャンドルの展示販売、オリジナル・キャンドルづくりの体験工房、あかりの魅力と歴史による移り変わりなど、見て、学んで、体験して楽しめる。(☎0749-27-5501)

### ●招福本舗(火曜日定休)

『招き猫』の発祥の一説に第二代藩主井伊直孝公が登場することから、訪れる人に幸せのお持ち帰りをと全国の有名作家作品を中心に招福縁起物を展示販売している。(☎0749-23-8629)

### ●四番町スクエア

彦根の台所と呼ばれた市場商店街が、大正時代の建築意匠を取り入れ、生まれ変わったまち。食のテーマ館「ひこね食実館四番町ダイニング」や、「ひこね街なかプラザ」を核施設に、パティオを配し、水の流れるせせらぎ、六童子、脳に優しい「ハイパーソニックサウンド」など癒しの都市空間としても注目されている。

### ●彦根仏壇(伝統的工芸品)

起源は遠く江戸時代中期とされ、武器・武器の製作に携わっていた塗師、指物師、鍔金具師などが平和産業としての仏壇製造に転向したのが始まりといわれている。七曲がりという通りは仏壇街として有名である。昭和50年、仏壇業界では初の「伝統的工芸品」に指定された。

### ●宗安寺

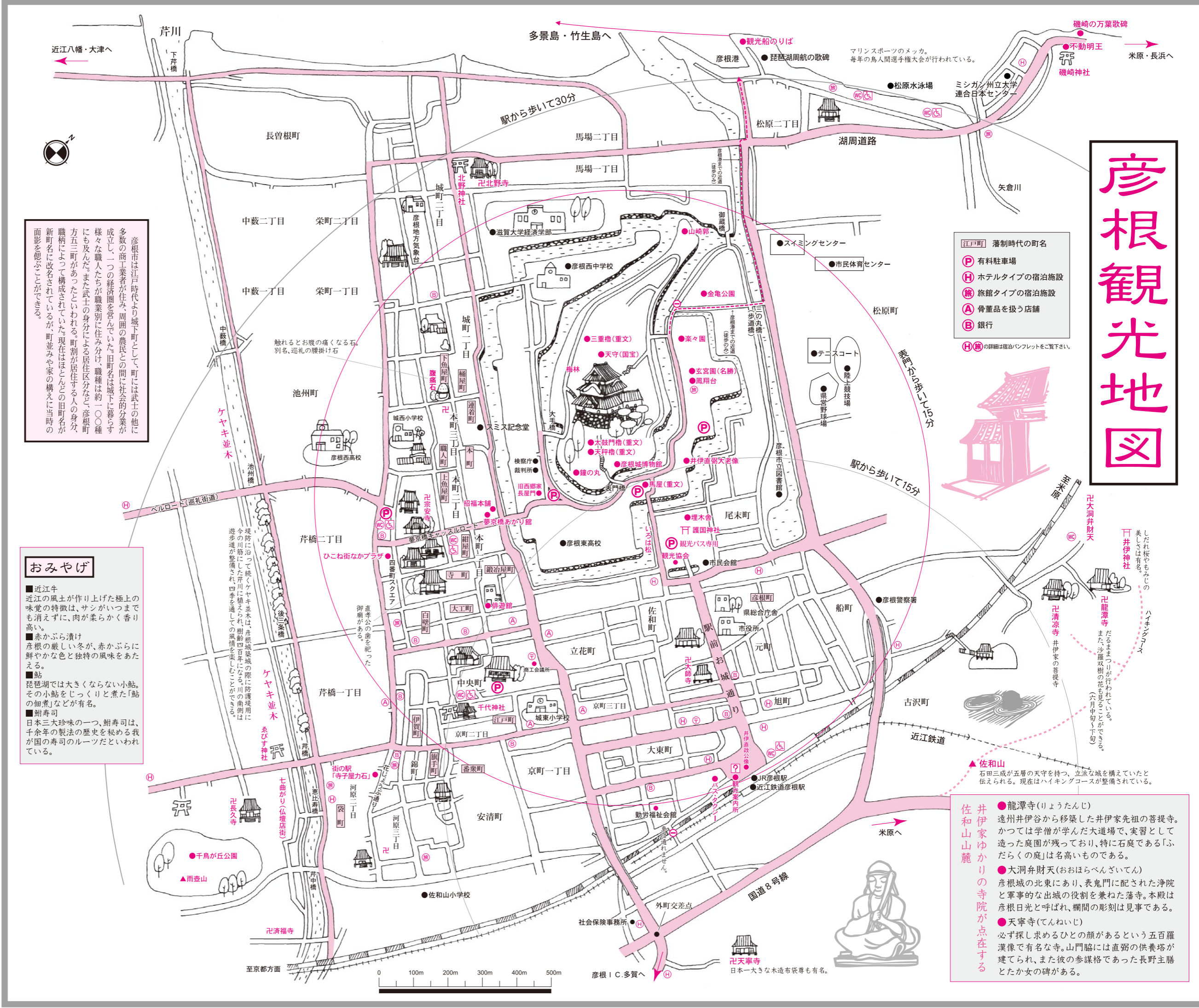
赤門の寺と呼ばれ、佐和山城の大手門を拝願した朱塗りの山門が見事。馬に乗っても通れるほどの高さがある。本堂は井伊直政が旧領の上州より移築し、徳川家康公の尊牌を祀り毎月10日の命日には藩主自ら参拝したという。(☎0749-22-0801)

### ●多景島

琵琶湖中央のやや東よりに浮かぶ小島で、眺める方向によりさまざまな島影を見せることから多景島と呼ばれる。島には日蓮宗見塔寺があり、北側には桜田門外の変に鮮血をにじませたという伝説をもつ題目岩もある。(彦根港から多景島までは往復約1時間・冬期は全便運休)

彦根市は江戸時代より城下町として、町には武士の他に多数の商工業者が住み、周囲の農民との間に社会的分業が成立し、一つの経済圏を営んでいた。旧町名は城下に暮らす様々な職人たちが職業別に住み分け、職種は約100種にも及んだ。また武士の身分による居住区分など、彦根町方五三町があったといわれる。町割が居住する人の身分、職柄によって構成されていた。現在はほとんどの旧町名が新町名に改名されているが、町並みや家の構えに当時の面影を偲ぶことができる。

**おみやげ**  
■近江牛 近江の風土が作り上げた極上の味覚の特徴は、サンがいつまでも消えずに、肉が柔らかく香り高い。  
■赤かぶら漬 彦根の厳しい冬が、赤かぶらに鮮やかな色と独特の風味をあたえる。  
■鮎 琵琶湖では大きくならない小鮎。その小鮎をじっくりと煮た「鮎の佃煮」などが有名。  
■鮎寿司 日本三大珍味の一つ、鮎寿司は、千余年の製法の歴史を秘める我が国の寿司のルーツだといわれている。



# 彦根観光地図

- 江戸町 藩制時代の町名
- (P) 有料駐車場
  - (H) ホテルタイプの宿泊施設
  - (M) 旅館タイプの宿泊施設
  - (A) 骨董品を扱う店舗
  - (B) 銀行
- (H)(M)の詳細は宿泊パンフレットをご覧ください。



美しきは有名、  
井伊神社  
しだれ桜やもみじの  
ムラサキツツキ  
井伊家の菩提寺  
井伊清涼寺  
だるままつりが行われている。  
沙羅双樹の花も見ることが出来る。  
(六月中旬より下旬)

佐和山  
石田三成が五層の天守を持つ、立派な城を構えていたと伝えられる。現在はハイキングコースが整備されている。

井伊家ゆかりの寺院が点在する

- 龍潭寺(りょうたんじ) 遠州井伊谷から移築した井伊家先祖の菩提寺。かつては学僧が学んだ大道場で、実習として造った庭園が残っており、特に石庭である「ふだらくの庭」は名高いものである。
- 大洞弁財天(おほらべんざいてん) 彦根城の北東にあり、表鬼門に配された浄院と軍事的な出城の役割を兼ねた藩寺。本殿は彦根日光と呼ばれ、欄間の彫刻は見事である。
- 天寧寺(てんねいじ) 必ず探し求めるひとの顔があるという五百羅漢像で有名な寺。山門脇には直弼の供養塔が建てられ、また彼の参謀格であった長野主膳とたか女の碑がある。